

## 天声人語

純白の祭服に身を包んだ天皇が、たいまつ明かりに照らされて歩む。1990（平成2）年11月、前回の大嘗祭で覚えているのは移動中の姿だけだ。肝心の儀式は中継されずに終わつた▼國家の安寧と五穀豊穰を祈る「大嘗宮の儀」が、今夜からあす未明まで皇居・東御苑で執りおこなわれる。29年前の記事にも、「なぞをはらんだ儀式が続いた」「二重の木綿のとぼりに遮られて、皇族にも参列者にもうかがい知れなかつた」とある▼「そもそもが秘儀中の秘儀です。天皇一代に一度きりの祭礼で、記録は少ない。全容が公開されたこともありません」と話すのは工藤隆・大東文化大名誉教授（77）。大嘗祭の起源を、繩文弥生時代までさかのぼつて研究してきた▼工藤さんによれば、鎌倉中期の大嘗祭を経験した後伏見天皇は、祭祀の詳細は口伝だとし、「最も秘すべきことがはないことが多い」と書き記した。そのため近年も推測まじりの学説がいくつも唱えられてきた▼実際、天皇はどんな動作をするのか。平成の大嘗祭前、宮内庁が発表したところによると、湯で全身を清めて祭服に着替え、新穀を神に供えて、自らも食す。日付が変わると、隣接する建物に移り、同じことを繰り返すという▼きょうの儀式が済めば大嘗宮は一般公開される。だが儀式の行われる建物の内部は非公開とされた。秘められれば秘められるほど、関心を寄せるのが人の常。謎めいた部分があつてこそ象徴としての存在感は増すということなのだろうか。